平成２６年度

校 内 研 修 計 画

山梨市立牧丘第一小学校

１　学校課題

本校は，山梨県の北東部，甲府盆地の北部にある山梨市に位置し，緑豊かな自然環境と肥沃な土地に恵まれ，桃やぶどうなどの果樹栽培を中心とした農業が盛んな地域にある。

本校の児童は，明るく素直な子ども達である。児童会活動・学校行事などの体験学習には，真面目に一生懸命取り組んでいる。縦割り班の活動を中心に，上級生が下級生の面倒をよく見ており，そのことが次の学年に自然に引き継がれている。指示された課題に一生懸命取り組むが，反面自ら主体的に考えて行動する姿勢が弱い。また，授業の中で自分の考えに確信が持てないこと，教師には自分の考えが言えるが，子ども同士で考えを出し合い，深め合うといった学び合いができていないことが課題であった。

このような児童の実態から，場面設定を工夫していく事が，学び合い，考えを深め，高め合う子どもの育成に有効であると考え，昨年度までの２年間，研究を進めてきた。また，確かな学力の育成，落ち着いた学習習慣の確立に向け，学習規律の徹底や家庭学習への取り組み等における指導の工夫を再認識し，全校体制で実践してきた。その結果，一人ひとりが自信を持って自分の考えを発表する姿や，互いの考えを交流させながら共通点・相違点に目を向けたり，新たな考えを練り上げたりする姿が見られるようになり，子ども同士の学び合いの場に変容が表れてきた。

しかしながら，「考えを深め合う」「高め合う」ことについては，数値的に表すことが難しく，子ども達の変容を見取る検証方法を確立していく必要がある。また，伝え合う力を付けていくための具体的な手立てや，子ども同士が活発に討議できるような場の設定など，指導の工夫についてもさらに研究を進めていく必要がある。

２　研究主題

「学び合い，考えを深め，高め合う子どもの育成」

～子ども同士の対話的コミュニケーション活動を通して～

３　主題設定の理由

近年，知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など急速に社会が変化する中，変化に対応する能力や資質が一層求められている。また，国内外の学力調査結果などから，わが国の子ども達には，思考力・判断力・表現力等に課題が見られることが明らかである。新学習指導要領では，改訂の基本的な考え方として「生きる力」という理念の共有をはじめ６つの項目が掲げられている。その中に，思考力・判断力・表現力の育成があり，これらの力を育むためにも言語活動の充実が強調されている。学力は，対話的な活動やコミュニケーションなどのつながりから形成され，子ども自身が疑問に思ったり考えたり，挑戦したりする過程を通じて身についていく。学校生活で，意識的に言語活動やコミュニケーションが育つ集団づくりをすることによって，学力が身についていくであろう。

これらの今日的課題と本校の教育目標である「基本的習慣を身につけ，自らの意志で学び，心豊かにたくましく生きる子ども」の具現化を考えると，まさに言語活動を通じて積極的に学び合い，思考し，高め合う子どもの育成が求められていると言えるだろう。

昨年度までの２年間の研究を進める中で，学び合う授業の前提として，「みんなで聴き合う」「みんなで認め合う」学級集団づくりが大切であることが明らかになった。子どもたちが，自分の考えを安心して表出するためには，それを支える「聴き合う学級集団」が存在しなくてはならない。また，学習意欲を高め学び続けるためには，「認め合う学級集団」でなくてはならない。授業を通して学級づくりをすることは当然だが，学級活動，さらに学校生活全体を通して意図的・計画的・継続的に学び合う集団づくりを推進していく必要がある。聴く力を高めることは，コミュニケーション活動を円滑に進める上でも考えを深め合う上でも重要な要素である。

昨年度には，学年に応じた目ざす子ども像（話す力・聴く力）を具体的な形にまとめ，日常の取り組みとして実践することにより，授業の中だけでなく，学校行事や集会，朝や帰りの会などの場面で

も聴き手を意識して話すことや聴く姿勢を育てることができた。

本年度は，昨年度までの取り組みにおける成果と課題を踏まえ，学校生活全体において言語活動＝対話的コミュニケーション活動を積極的に取り入れ，共に学び合い高め合う子どもの育成を進めるとともに，学級づくりのための効果的な取り組みや，対話的コミュニケーション活動を学力向上につなげられるような授業の工夫もしていきたいと考え，本主題を決定した。

4　研究の具体的内容と方法

(1)研究の内容

ア　対話的コミュニケーション活動を取り入れる取り組み

・理論研究，講師を招聘しての学習会を実施する。

・算数科の活用問題への取り組みを中心に，全教育活動での場や方法，内容を工夫する。

・実践例のストック（実践カード）

・実践を公開し合う中で，授業力を高める。

イ　学習環境づくり

・学級力づくり…Q-U テストの活用，学級力向上プロジェクトの活用，等

・学習習慣の確立…学習規律の徹底→学級，学校全体（「聴く力」を高める取り組みを昨年度と同様に進める）

…家庭学習（家庭との連携　等）

(2)研究の方法

ア　全体会，ブロック（低学年・高学年）の２部会により研究を行う。

イ　学校生活全体を通して，対話的コミュニケーション活動に取り組む。

ウ　児童の変容を見取る検証方法について検討する。

エ　伝え合う力を付けていくための具体的な手立てや，子ども同士が活発に討議できるような授業の工夫を考える。

オ　ブロックで全体研究授業を設定する。(指導主事招聘)

カ　一人一実践の授業公開を行う。

5　年間校内研修計画　　研究主任　山元　和香子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	時期	T.C要請
研究の基本的な考え方		研究主任		４月	
研究主題等全体計画		研究主任		４月	
理論研究・学習会	各教科 道徳 特別活動　等	研究主任		５月	
学習会（指導主事招聘）		研究主任		６月	○
理論研究・学習会		研究主任		７月	
理論研究・児童意識調査(1 次)		ブロック長		７月	
部会別研究　教育課程還流報告会		ブロック長・各担当		８月	
部会別研究	各教科 道徳 特別活動　等	ブロック長		９月	
授業案全体検討		ブロック長		９月	
研究授業Ⅰ		授業者		10 月	○
部会別研究		ブロック長		11 月	
授業案全体検討		ブロック長		11 月	
研究授業Ⅱ		授業者		11・12 月	○
実践授業のまとめ		担当者		12 月	
部会別研究・児童意識調査（二次）		ブロック長		１月	
研究のまとめ　次年度方向性		研究主任		２月	
研究収録作成		研究主任		３月	